

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ネイスぷらす浦和校		
○保護者評価実施期間	2025年12月10日		2025年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49	(回答者数) 27
○従業員評価実施期間	2025年12月10日		2026年1月8日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の活動内容の共有及び振り返りを毎日行っていること。	活動内容を設定するにあたり、お子様のご様子や状態、発達段階にあわせて対応している。	設定した活動内容の振り返りを行い、安全面や内容に課題が見られた際は、修正し再設定にあっている。
2	トレーニング内容が固定化しないように工夫している。	体操サーキットや課題活動は週毎にテーマを決めて取り組んでいる。ご利用されるお子様に合わせて内容を調整している。	店舗での活動内容の共有はもちろん、会社全体として療育案や課題設定の会議や研修会の実施、支援に関わる資格取得の推進があると、全体的な質の向上につながる。

3	サービス担当者会議や関係機関連携、幼稚園や小学校訪問に積極的に取り組んでいる。	保護者様からのご要望により実施している。他事業所でのお子様の様子、課題、支援方法などについて共有や提案をしていくことで、他事業所も含めて統一感のある支援を提供することを目指している。	児発管中心に取り組んでいるが、予定調整のうえ指導員も参加していくことで、教室全体として支援における意識の統一を目指したい。
---	---	---	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室自体が狭く、他店舗にある器具が設置されていない。	教室の広さや安全面の観点から、このような形で教室が設定されている。	教室が狭い分、サーキットを作成する際は、体操器具の配置、職員配置、視覚がないかどうかなど、様々な面において工夫をしながら作成していき、浦和校だから提供出来る楽しい活動を模索していきたい。
2	他事業所や地域のお子様との交流の機会、保護者様同士での交流の機会が少ない。	事業所が提供する活動内容や活動時間により、現状は実施が難しい。	会社として引き続き検討していく必要がある。ネイスぷらす内であれば、近隣店舗と一緒に開催されるイベントも提案したい。
3	エアートランポリンの大きさの都合上、常に支援室に設置している必要があるため、ご利用人数によっては教室を広く使えないことがある。	器具の大きさや使用するコンセントの関係で配置を変更することは難しい。	鬼ごっこやドッジボールなど、体を大きく動かす活動をする際は、1クラスのなかでチームわけをして一度に活動する人数を調整したり、フープを使用してお子様が自分の立ち位置を理解しやすいように内容を設定したりする必要がある。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		ネイスぷらす浦和校				公表日	2026年 2月 9日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	追いかっこなど自由に動くには狭いため、おもちゃで遊ぶ人と動いて遊ぶグループで場所を分けて遊んでいる。教室自体は狭いため、跳び箱を行う際は安全を確保するため、サーキットや器具の配置を工夫している。指導員全員で安全に見守れる範囲で活動内容を設定している。	利用定員が6、7人になるとお子様ひとりあたり使用できる範囲が小さくなることで、お子様同士や器具との接触が起こりやすくなるため、活動における導線や安全面を配慮したレッスン内容を設定する必要がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	利用人数や指導員人数に合わせて環境を整えている。指導員3名で安全に活動をまわせるよう、事前の活動設定や児童共有をしっかり行う。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	壁掛け時計は読むことが難しいお子様も目視で分かるよう矢印のマークを取り付けてる。器具は倉庫を活用して教室はなるべく物が少なくなるように環境を整えている。支援室以外は基本ルールとしてお子様が出入しないようになっているため、職員からの死角を極力少なくするよう努めている。相談室をお子様のクールダウンを促す場所として使用することもある。	消防法により、相談室とフロアとの壁に隙間があるため、保護者様との面談内容がお子様にも漏れ聞こえてしまうのではというご心配の声をいただいた。レッスン中の面談では、フロアで音楽を流す、児童の動きが一番多くなる時間帯を面談に使用するなどして対応していく。	

	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	毎日教室内やおもちゃの清掃を行なっている。使用したおもちゃは清掃時にわかりやすいよう、場所をわけて保管する。レッスン中に感染症症状が見られた際は他児童から離れた空間に移動し運動器具で仕切りをつくるなどして対応している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	運動器具を使用し、視覚の遮断をすることでお子様が集中しやすい環境をつくることがある。また、相談室をお子様クールダウンを促す個室として使用することもある。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	レッスン内容の作成、立案は職員間で協力し、分担をしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	以前のアンケートより、職員用のスリッパを増やし、すぐにスリッパで外に出られるように改善をした。今後も引き続きいただいたご意見を意識をしていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	朝礼や終礼などで支援について会議を行っており、レッスン内容やお子様の対応について、より良いものを提供出来るよう努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	社内社外の監査チームによる定期的な評価等を行い、業務改善に努めている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	療育や課題活動の研修については、店舗内で話し合ったり行ったりする機会がある。社内研修は月に一度行われている。	入社時期によって受講した研修内容に差が生じるため、店舗内での研修や実施された研修の共有、確認を行っていく。

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	浦和校HPに支援プログラムが開示されている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	家庭の様子、保育園・幼稚園の様子も伺いながら計画を作成しており、教室全体で会議を行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	支援会議を実施し他指導員の意見を取り入れている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	終礼により日々様子を共有し、支援計画にそった評価を記録に記載している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	日々職員が支援においてお子様のご様子を見ていき、お子様の状態や状況を確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	それぞれの項目を網羅した計画を作成している。事業所が提供している支援内容から、地域交流の機会がないが、他事業所や幼稚園訪問にも触れながら作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	レッスン内容の作成、立案は職員間で協力し、分担をしている。	

関係	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	支援容作成時に職員間で相談をしたり、週間で変更するサーキットが1ヶ月で繋がるよう意識して設定する場合もある。	レッスン内容の流れについて固定化された概念をもってしまふことで、代わり映えしないサーキットになってしまうことがあるため、お客様のどのような部分に対してどのようにアプローチしたいのかという目的を見失わないよう内容を作成する必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	保護者様のニーズに合わせ集団や個別の目標を使い分けて設定している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	朝礼で話し合いをしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	毎日ご利用者様の情報を共有し、終礼を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	会議内容は日報に記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	保護者様からご要望があった場合、サービス担当者会議や関係機関連携を実施している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	保護者様からご希望があれば幼稚園保育園、小学校への訪問やサービス担当者会議などに参加している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	保護者様のご希望により実施している。うるおいファイルの記入欄の情報共有などを行っている。	

機 関 や 保 護 者 と の 連 携		(28~30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	5	0	関係機関連携やサービス担当者会議などにおいて、ご利用者様との関わりや支援について相談、会議をする機会がある。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		課題として感じているが、保護者様からの様々な意見を頂いているため、会社としては必要性を含めて引き続き検討していく。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	レッスン後のフィードバックやサービス提供記録にて日々状況の伝達を行っている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	5		会社としても開催に向けて前向きに検討をすすめている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時にお時間をいただき丁寧に説明をしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	モニタリング面談などにより保護者様のご意向を伺いつつ、お子様にとってよりよい計画を作成出来るよう心掛けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	内容をお伝えの上、同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	必要に応じて子育てサポート等を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	5		会社としても前向きに開催を検討している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	管理者や児発管中心に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	活動記録やInstagram等で行事などで発信をしている。	活動記録やInstagram公開まで時間があるため、保護者様やInstagramを閲覧される方に新しい情報をお届け出来るよう、早急な対応を心掛け、3日以内に公開出来るようすすめていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	それぞれのご利用者様に伝わりやすいようなやり取りを心掛けている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5		課題として感じているが、保護者様からの様々な意見を頂いているため、会社としては必要性を含めて引き続き検討していく。
非常時等の	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	1年に5回訓練を実施し、年間カレンダーにスケジュールを記載している。	現状の訓練の方法だと、お子様全員に訓練の機会が与えられないため、様々なお子様に訓練の機会を提供出来るよう、月に1度は訓練や確認をしたり、課題活動に組み込んだりしていきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	BCPの研修は全社員で行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	詳しく確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	アレルギーの症状について細かく聞いている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		

対応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	契約時にお伝えしており、掲示をしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	ヒヤリハットについては細かく共有している。見守りカメラを見ながら、その都度振り返りを行っている。終礼や朝礼などで報告や対策を話し合っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	虐待の研修を会社全体で実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	虐待や身体拘束における研修を会社全体で実施している。	